

令和元年度

府中市教育委員会点検・評価報告書

(平成30年度事業対象・ダイジェスト版)



アニメーター 安藤雅司氏による

原画 《タイトル》

9年間の学習成長
～1年ごとの満喫～

令和2年3月

府中市教育委員会

I 府中市教育委員会における点検・評価の取組について

- 1 事務事業評価は、事業を実施している所管課が事務事業の現状を把握し、認識した上で、目的を達成するために解決すべき課題を発見し、具体的な改善につなげていく取組みです。

事務事業評価制度を導入することにより、事業所管課が事業の成果を組織的、定期的及び客観的に見直し、データに基づく改革・改善を行いやすくなるという効果が期待できます。

- 2 点検・評価の対象となる事業

第4次府中市長期総合計画の第1期実施計画内の事業で、教育委員会の主要な事業を対象として行った事業について点検・評価の対象とします。

- 3 対象となる期間

平成30年度とします。

- 4 点検・評価の実施方法

- (1) 教育委員会における点検・評価

事業の担当課が自己評価する1次評価と教育委員会全体として総合的に評価する2次評価の2段階で実施します。

- (2) 学識経験を有する者の知見の活用

評価の客観性を確保するため、外部の有識者による評価を行います。

学識経験を有する者として、前府中市教育委員会教育委員 骨田るり子氏に御意見をいただきます。

- 5 評価方法

事業の執行結果について、活動指標、成果指標、事業コストを用いて「目的妥当性」、「有効性」、「効率性」及び「公平性」の観点から評価を行います。

II 教育委員会の活動状況

i 教育委員について

本市教育委員会は、人格が高潔で教育、学術及び文化に関し識見を有するもののうちから、市長が市議会の同意を得て任命した5人の教育委員により構成されています。平成27年4月1日施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により教育委員会制度の抜本的な改革が行われ、平成27年10月1日に教育委員長と教育長を一本化した新教育長を設置しました。

平成31年3月31日現在

職名	氏名	任期	
教育長	平谷昭彦	平成30年10月3日～ 平成33年10月2日	3期目
教育長職務代理	古川一雄	平成27年7月3日～ 平成31年7月2日	1期目
委員	高橋良昌	平成28年12月19日～ 平成32年12月18日	1期目
委員	和知啓子	平成29年10月1日～ 平成33年9月30日	1期目
委員	松尾紀美	平成30年12月19日～ 平成34年12月18日	1期目

ii 教育委員会の開催状況について

定例会、臨時会など平成30年度は、17回の教育委員会会議を開催し、60議案について審議しました。

Ⅲ 事務事業の点検・評価の結果

[結果一覧表]

i 教委総務課関係

事業名	1次評価	2次評価	備考
学校施設改修事業	目的拡大	目的拡大	
通学バス等運行业務委託事業	現状維持	現状維持	
給食センター厨房機器改修計画事業	目的絞込	現状維持	
上下町民会館改修事業	目的絞込	事業改善	
備後国府跡確認・整備・活用事業	目的拡大	目的拡大	
府中市歴史民俗資料館改修事業	目的拡大	目的拡大	

ii 学校教育課関係

事業名	1次評価	2次評価	備考
外国語指導助手招致事業	現状維持	現状維持	
キャリア教育推進事業	事業改善	事業改善	
適応指導教室	現状維持	現状維持	
小中一貫教育推進事業	目的拡大	目的拡大	
グローバルキャンプ	事業改善	事業改善	
コミュニティ・スクール	目的拡大	目的拡大	

iii 生涯学習課関係

事業名	1次評価	2次評価	備考
国府公民館建替事業	目的拡大	目的拡大	
学習拠点としての整備(TAM・公民館)	事業改善	事業改善	
スポーツイベント	事業改善	事業改善	
体育施設修繕事業	事業改善	事業改善	

iv 外部有識者による評価

平成30年度は、7月の西日本豪雨による災害対応・災害復旧の年であった。自分の住んでいる、我が子も通った府中明郷学園が、御調川の氾濫により床上浸水し、夏休みを間近に控えた学校生活をストップせざるを得なくなった。未曾有の豪雨だった。あ然呆然もつかの間、学校再開への動きがすぐさま始まり、本当に多くの方の力により、復旧作業は進んでいった。

グラウンドの汚泥処理、職員室の復旧、テニスコートのライン貼りなど、復旧に至ったのだが、中でも、浸水した第2体育館の改修にあたって、その床材を、県内企業様からの寄付お申し出により頂戴し、改修された体育館で卒業式を迎えられたことは、児童生徒、学校、保護者、地域にとって本当にありがたいことであった。施設復旧を通して、児童生徒だけでなく、人の温かさを感じ、人として成長する学びを得られたのではないかと考える。

コミュニティ・スクールで培われていたのかもしれないが、「恕の心」を合い言葉に、互助の精神で、皆で一丸となり復旧へ歩んだことは、平成30年度の忘れられない大きな出来事である。

1 施設整備

学校の施設改修として、トイレの洋式化を進められていたが、栗生小学校トイレ改修工事をもって、洋式トイレのない学校はなくなった。快適な環境は、少なからず学習意欲に影響を与えると思うので、トイレに限らず、学校生活の場として改善を進めていただきたいと思います。

生涯学習の場として、また地域のコミュニティの拠点としての公民館の、耐震改修工事に向けての準備が始まりました。設計業務を終えた久佐公民館と出口公民館、どちらも元小学校校舎であるが、耐震改修工事を経て、地域のシンボルタワーとして、長くそこに在り続けることになるだろう。安全な工事進捗を願う。

2 教育の充実

府中市の教育は、「小中一貫教育」と「コミュニティ・スクール」。先に述べた災害復旧の対応において、コミュニティ・スクールの意義を痛感し、その意味を体感した。地域の中の学校であること、学校の中に地域があること。これは、足踏みを止めずに歩みを進めようとする「続ける・つながる力」があつてこそそのもの。平成31年当初には、コミュニティ・スクール全校指定となった。より一層の足踏みと前進とが期待される。

学校では、校長先生とはじめとした教職員のひたむきな思いと熱心な授業研究、児童・生徒のまっすぐな一生懸命さが常に感じられる環境となっていると感じる。英語教育、キャリア教育、食育、読書活動等々も含め、更には、パソコンやネット

ワークを使った学習も加速する予感があり、未来を予見し対策を講じる姿勢を教育委員会に求めたい。

教育をとおして、愛郷心や豊かな心を育てるだけではない。課題を解決したり、交渉によって道を切り開いたり、生きる力を身につけていくものである。

児童生徒、学校、保護者、地域、教育委員会、行政と、ともに「府中市の教育」を充実させ続けていこう。

平成30年度は、実に多くの図書の寄贈または図書費としての寄附があったと聞いた。各校を順番に、あるいは1年度限りで全ての学校に、真新しい図書が加わることは、読み聞かせボランティア活動を実践する者にとっても、楽しみが広がり、期待が高まり、わくわく感がふくらむ。目を輝かせている多くの児童生徒の姿が見られる、そんな図書室になっていくよう取組の継続をお願いする。

3 スポーツ、文化・芸術活動

スポーツ施設の建設、整備について、協議検討が前進するのとおもいきや、また、足踏みをしているようにみている。スポーツには、競技スポーツもあれば障害者スポーツもあり、学校体育や社会体育もある。2020東京オリンピック・パラリンピックの開催を控えており、府中市も聖火リレーが行われるとのこと、スポーツへの意識関心の高まる時期でもある。そういった情勢をうまく取り入れて、具体的な進展が見られることを期待している。

備後国府跡の整備・活用については、定期的に講演会（フォーラム）・イベントを開催され、一定程度の参加者と効果があると思うが、広く府中市民が備後国府跡に興味を持っているかということ、課題として残り続けているのではないかと。市長と教育委員会とで協議を重ねて策定した「府中市教育大綱」には、教育委員会として、教育によってまちづくりへ貢献していきたいという思いを込めている。観光とのコラボレーションや、SNSを使った情報発信など、より多くの人に備後国府に触れていただけるような実践につながることを期待している。

4 まとめ

教育という分野に限らず、福祉や観光、あらゆる分野との連携・協力が強まっていくことだろう。子育て、教育、ものづくり。目指すゴールを共有されたうえで、分野の枠、部局の枠、担当の枠を柔軟に捉えられ、アイデアのたくさん詰まった施策の展開を期待している。

V まとめ

府中市教育委員会は、平成27年10月から新たな教育委員会制度での運営となった。府中市総合教育会議の開催により、より多くの意見を聴取し、発信する機会を得たことにもなっており、小中一貫教育の推進、より一層の充実にまい進している。

平成30年度の評価については、第4次府中市長期総合計画の第1期実施計画内の事業で、教育委員会の主要な16事業について点検・評価を行い、概ね妥当であるとの評価となった。平成30年7月の西日本豪雨により府中明郷学園が浸水し、校舎も体育館もグラウンドも汚泥に覆われた、あの凄惨な状況から、わずか1ヶ月で、児童生徒の学校登校、授業再開を迎えることができた。府中明郷学園のあらゆる環境の復旧に多くの人々の力が結集し、再開の日を迎えられたことは、本当に奇跡としか言い様がない。学力を身につける教育と同時に、地域や仲間との連帯を育んできた証「コミュニティ・スクール」の取り組みがあったからこそではないだろうか。

平成30年11月には、市長の主宰する総合教育会議での議論を経て「府中市教育大綱」が策定された。中国地方初となる義務教育学校の設置、府中市教育委員会が実践する「小中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の進展により、学校、地域、保護者がともにスクラムを組み、教育環境の充実。教育都市として、全国トップランナーとして走り続けていくための努力を惜しまない。

平成27年4月に60年ぶりに改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、事務事業の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされた。評価に対して外部有識者からは、「教育という分野に限らず、福祉や観光、あらゆる分野との連携・協力が強まっていく」という意見を頂き、関係機関との一層の連携を図っての事業実施に期待をいただいた。寄せられた貴重な意見を参考にし、子供達へよりよい教育環境を提供し続け、生涯を通した「学び」の実践を推進していきたい。